
グッバイ・マイドリーム

さや

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

グッバイ・マイドリーム

【Nコード】

N3228Y

【作者名】

さや

【あらすじ】

ほんの少しの油断から、大事な嫁を失ってしまった青年。

悪夢のような現実に立ち向かうには、彼はあまりにも脆すぎた。

一部に下ネタを含みます。苦手な方はご注意ください。

今日は、待望の嫁が来る日だ。

この日の為に、俺はわざわざ部屋のドアノブを鍵付きの物に付け替えた。

嫁とイチヤイチャする夢の時間を無粋な家族に邪魔されたくは無
いからな。

ベッドはシングルだが、どうせ隙間も無いくらいギュウギュウに
抱きしめて寝る予定だから問題は無いだろう。

布団は一つ、枕は二つって奴だ。

今夜の事を思って一人自室でニヤニヤしていると、今はまだ鍵の
掛けられていないドアノブがカチャリと音を鳴らした。

反射的に扉へ顔を向ければ、そこには実の姉が冷やかな目つきで
俺を見下ろす姿があった。

な、…何だ？

姉のその、いかにも蔑んでいますというような絶対零度の視線に
思わずたじろいでしまう。

こんな風に見られるのは、自分の洗濯物に紛れていた姉の下着を
返そうとして逆にいらぬ誤解を招いてしまった時以来だ。

「まさか、アンタにこんな情けない趣味があったなんてね。」

吐き捨てるように言いつつ、姉はさらに扉を開いて左手に持って
いる物を見せつけるように突き出した。

その物の正体を確認して、俺は恐怖に喉を引き攣らせる。

ひいっ！

そっ、それは、まさしく今日来る予定だった俺の嫁っ！

アニメヒロインの等身大抱き枕、限定水着バージョン！！

なぜ！どうして、それが姉の手に！？

今日は午後から家族皆予定があるって話だったから、それ以降に届くように指定してあったはずなのに！

まさか、オヤジやオフクロにまで見られたんじゃないだろうな！？

近場でついであつたのか何なのか知らないが、指定された時間はきちんと守れてんだよ！

社員の教育はどうなってるんだ！チクショウ！チクショウ！ドチクショウ！

憎悪、羞恥、恐怖。

混乱に荒れ吹きすさぶ心の中で逃避的に配達員を罵っている俺に、姉は情け容赦無く口撃^{くつげき}を仕掛けて来た。

「何よ、このキモい抱き枕。バツカみたい。

いくらリアルでもテないからって、変な物に逃避してんじゃないわよ。

こんな駄枕で自分をダマクラかして楽しいワケ？

ったく、いい年こいて恥ずかしいったらありやしない。目え覚まさないよ。

あと、コレは私が処分しておくからね！」

今日も姉の名刀が俺の急所を的確に切り刻んで来る。

不用意に言い返せばさらに辛辣な一太刀を浴びせられる事は分か

っているので、俺は脳内で懸命に叫んだ。

くっそおお、二次元に夢見る事の何が悪いって言うんだ！

リア充な姉貴ならいざ知らず、俺にとっては現実の方が悪夢みたいなもんなんだよぉーっ！

とは言え、そんな俺でも処分という言葉聞いてはさすがに黙ってられない。

しかし、抗議のために口を開こうとした瞬間、まるで伝説のメドウーサのような鋭く強烈な睨みを利かされて俺の身体は石像のごとく固まってしまった。

まあ、一部のまだ一度も鞘から抜かれていないナマクラ息子だけは逆にフニャフニャになっているわけだが、コイツがコチコチだなんて言ったら、俺は実の姉の罵倒に興奮するド変態になってしまう。くっ…。だが、まだだ。まだ終わらんよっ。

例えば今ソイツを処分しようとも、いずれ必ず第二・第三の嫁が…。瞬間。女特有の恐ろしい第六感とやらで思考を察知されてしまったのか、姉は眉間に皺を寄せてこう言い放った。

「忠告しておくけど…、次は無いわよ。

社会的に葬り去られなくなければ、こんなキモい趣味はスッパリ諦めることね。」

…絶望。

あまりのショックで、一気に目の前がマツクラになり、身体から力が抜けヨロヨロと地に伏してしまう。

俺が倒れるのとドアが閉まるのは同時だった。

ああ、今となつては無用の長物となつてしまった鍵付きドアノブが恨めしい…。

ふと嫁を迎える為にマクられた毛布が視界の端に入り、一層俺の
中の喪失感を引き立ててくる。

その夜。カマクラのように布団を盛り上がらせて、その中で一人、
俺は亡き嫁を想い枕を濡らした。

グッバイ・マイハニー。

グッバイ・マイラブ。

そして…。

永遠にグッバイ……………マイ……………ドリーム…。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3228y/>

グッバイ・マイドリーム

2011年11月11日20時15分発行